教 室 短 信

◎1990 年以来 26 年間の長きにわたって当教室で教鞭をとられた松本陽正教授と、2004 年以来 12 年にわたって主として当教室で教鞭をとられたジャン＝ガブリエル・サントニ教授が 2016 年 3 月末で広島大学を退職された。なお、両教授とも、2016 年 4 月、広島大学名誉教授の称号を授与された。

◎ 2016 年度は、前年度末に定年退職された上述の 2 名の教授を欠き、寂しくなってしまったが、幸い、サントニ教授の後任として、オリヴィエ・ロリヤール准教授（専門はフランス語教育学）が着任され、少し新しくなった体制で教室運営を続けている。

◎2016 年度の授業は、ことのほか仏文教室の卒業生に助けられた。以前よりご援助いただいている中川正弘広島大学国際センター教授（学部「現代フランス文学演習」、大学院「フランス文学語学演習」）に加え、伊ヶ崎泰枝客員准教授（学部「現代フランス文学序説」）、原野葉子客員准教授（学部「20 世紀フランス文学演習」）、集中講義の形式で、中山智子京都外国語大学准教授（学部「フランス文学特殊講義」）に出講していただいた。また、石野好一新潟大学教授（学部「フランス語学講義」）にも集中講義をしていただき、ヴァラエティ豊かな授業が提供できた。

◎2016 年 6 月より、ドイツ文学語学教室と当教室の事務を寺尾要子さんに担当していただいている。

◎ 下記の方が上梓された。
杉山毅訳、レーモン・ジャン著『軽やかな短い服を着て　― またはリュベロン奇談』、青山社、2016
松本陽正、『「異邦人」研究』、広島大学出版会、2016

◎ 広島大学留学プログラムの HUSA プログラムに基づき、当教室 3 年生の越智菜穂さんがトゥルーズ・ル・ミラーユ大学に、また USAC プログラムに基づき、同じく 3 年生の萱田陽さんがリヨン第 2 大学に、2016 年 9 月から 10 ヶ月間の予定で派遣された。

◎ 広島大学文学部とスイスのローザンヌ大学文学部との間の学術交流協定に基づいて、当教室の 1 名を含む 2 名の学生が、2016 年 8 月、ローザンヌ大学夏季フランス語研修短期留学プログラムに派遣された。 (Mi.)

※本欄への情報をお寄せください。（akikomiy@hiroshima-u.ac.jp)

2015 年度　卒業論文題目

井関　愛　　『愛をさがして』における孤独について

小橋　由美子　　ジャン・コクトー『恐るべき子供たち』論
— 子供部屋での遊戯と死の宿命 —

2015 年度　修士論文題目

播磨チヅ子　　カミュとテロリスム
—『正義の人びと』を中心に —